



マリレジャーを楽しむために安全対策を忘れずに！

周囲を海に囲まれた日本では、海水浴や釣り、サーフィンなど、様々なマリレジャーを楽しめますが、一方、毎年のように、マリレジャー活動中の事故により死者や行方不明者が出ています。楽しいレジャーのひと時を暗転させないため、マリレジャーを安全に楽しむためのポイントを、あらためて確認しましょう。

1.これだけは知っておこう！マリレジャーの安全策「3つの基本」

基本1 ライフジャケットの常時着用

釣り、磯遊び、水上バイクなどで海に落ちても、ライフジャケットを着用していれば、海面に浮かんで助けを待つことができます。

基本2 防水パック入り携帯電話の携帯

マリレジャーの大半は海浜や沿岸で行われることから、携帯電話やスマートフォンの電波が届くことが多い。防水パック等に携帯電話を入れて携帯していれば、事故に遭ったり事故を見聞きしたりした際に助けを呼ぶことができます。

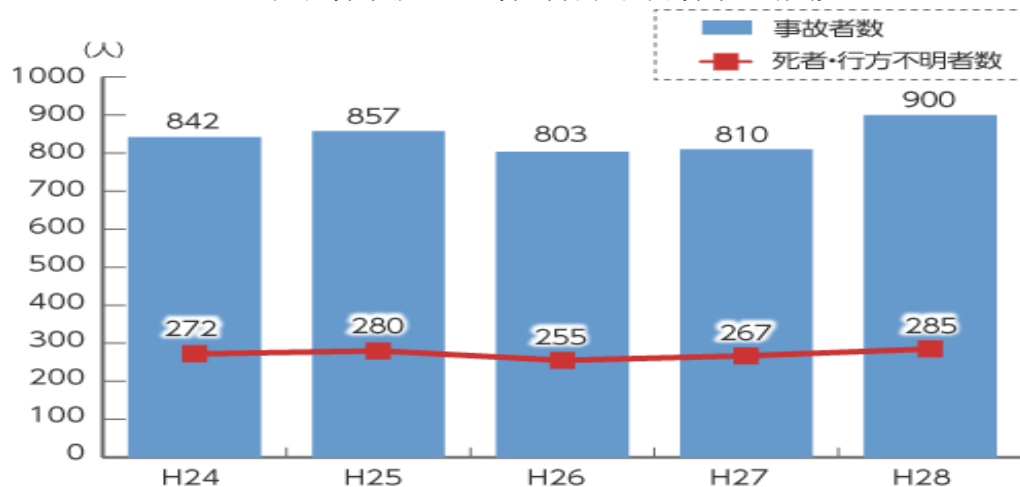
基本3 118番の活用

マリレジャーの事故に遭ったり事故を見聞きしたりした際は、海上保安庁の緊急通報用電話番号「118」へ電話を！ 最寄りの管区海上保安本部につながります。

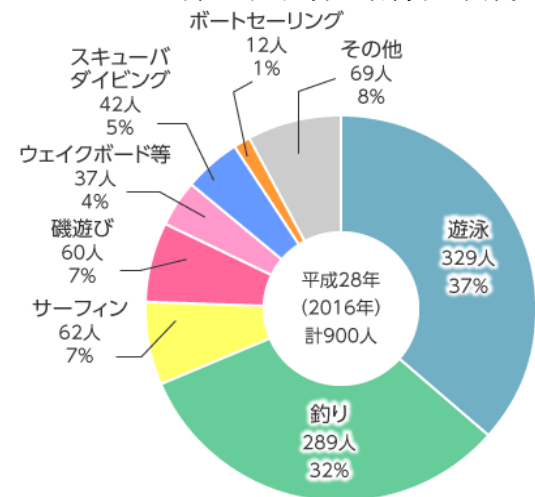
2.どのようなマリレジャーの事故が起きているの？

マリレジャー活動中、毎年800人から900人程が事故に遭い、うち200人以上の方が死亡または行方不明となっています。マリレジャー事故に遭った人全体に占める死者・行方不明者の割合は、約3割を超えています。

最近のマリレジャー事故者数及び死者・行方不明者数の推移



マリレジャー別の事故者の割合(平成28年)



3. 海水浴を安全に楽しむには

遊泳に関連した平成28年(2016年)の事故者は329人で、マリレジャー事故者全体の37%を占めて最多となっています。「遊泳」事故の内容を見ると、最も多いのは「溺水」、つまり水に溺れた事故で、「遊泳」の54%を占めています。次いで「帰還不能」つまり沖合へ出過ぎたり潮に流されたりして岸に戻れなくなった事故で109人(33%)、クラゲなど有毒生物や岩、他の遊泳者との接触などによる「負傷」の32人(10%)となっています。

事故を防いで安全に遊泳するために、特に次のような点にご注意ください。

・準備運動は念入りに

準備運動を怠ると、海中でけいれんなどを起こして溺れる危険があります。海に入る前には、念入りにストレッチを行いましょう。

・遊泳区域で泳ぐ

遊泳区域以外の場所は、急に深くなったり潮の流れが速かったりして危険なため、泳がないようにしましょう。

・海が荒れているときは泳がない

波が高いときや流れの速いときは危険ですので、絶対に泳がないようにしましょう。

・お酒を飲んだら泳がない

判断力や運動能力の低下により、事故につながる危険性が高いため、アルコール類を飲んだら泳がないようにしましょう。

・体調不良のときは泳がない

波や潮の流れがある海での遊泳は、体かなりの負担がかかります。特に、過労や睡眠不足のときは泳がないようにしましょう。

・保護者は子供から絶対に目を離さない

保護者が目を離したすきに子供が波にさらわれたり溺れたりする事故が多く発生しています。子供を海で遊ばせるときは絶対に目を離さないようにしましょう。小さな子供には、体に合ったライフジャケットなどを必ず着せましょう。